

☆ 広報誌「平和の文化をきずく」NO. 63 ☆

2001年から2010まで国連「世界の子どもたちのための平和と非暴力の文化国際10年」

◆東日本大震災と平和の文化

2011年3月11日、三陸沖を震源地とする過去最大の東日本大地震が発生し、死者と行方不明者を合わせて25000人を越える大惨事となりました。しかも震災の引き起こした津波によって、東京電力福島第一発電所が崩壊し、放射能の拡散という事態、更にはメルトダウンによる地域崩壊も予想されます。国会などでは既に危険性が指摘されながら、それに対して有効な手立てを講じなかった政府及び東京電力の責任は極めて多きものがあります。私たち平和の文化をきずく会としても、こうした事態を阻止できなかった責任を受け止めるとともに、今後日本の非核化に向けて積極的な行動を起こしていくことが求められています。

「世界の子どもたちのための平和と非暴力の文化国際10年」が12月で区切りとなったことを受けて、平和の文化をきずく会の今後について、幹事会で話し合ってきたが、実際に平和の文化が実現しているとはいえない状況と、大震災を踏まえたエネルギーや環境における「非暴力」や「平和の文化」について追求しなければならないと考え、本年度の総会において新たな一步を踏み出すことになりました。以下にまとめた総会報告と資料をもとに、積極的なご意見をいただけたらありがたいです。

◆総会報告－昨年度の総括と今年度の方針

「平和の文化をきずく会の2011年度総会は、3月27日(日)地球ひろばにおいて開催されました。予定では模擬国連会議の全日本大会の様子などを報告していただく予定でしたが、震災と放射能問題があり、講演していただくことができなくなりました。その代わりに今回の大震災と津波、更には原子力発電の問題をめぐって時間をかけた論議ができました。総会資料は1年間のまとめであり、震災にのこのことについては入っていませんが、方針のところで検討されました。

*****<総会資料>*****

I. 2010年度活動計画

1. 「わたしの平和宣言」署名の取り組み
 - (1) 国際年の取り組みと同じように数の集約を行う。
 - (2) 様々な組織に呼びかけ、平和運動の一環として取り組み、その集約数字は関連機関に報告する。
2. CPNN (Culture of Peace News Network: 平和の文化ニュースネットワーク)
 - (1) 今後とも現在のHPを維持しつつ、投稿の記事を広げて行く。
 - (2) モデレーターを養成するためのワークショップを行い、記事が掲載される可能性を拡大する。
 - (4) 400字を含めた投稿の規則を文書化して広める
 - ①積極的である②理解可能③短い(日400字/英200語)④わくわくする⑤首尾一貫した⑥礼儀正しい⑦真実である⑧相互作用⑨具体的⑩公共の利益
 - (5) 全国にモデレーターを配置し、CPNNのローカルセンターをつくる。
3. 平和の文化に資する材料・教材の整理、平和教育の実践などをまとめる
 - (1) まとめる母体として日本ハグ平和アピール平和教育地球キャンペーンとの連携によってすすめる
 - (2) 教材・関連団体等についてはHP上に載せられるようにしていく
 - (3) 『戦争をなくすための平和教育』を大きく普及させる。
4. 子どもと青年が主体となっている平和の文化をきずく活動に対して協力していく。
 - (1) 戦争展実行委員会の高校生や大学生、高校生平和ゼミ、ピースボート、その他大学生や高校生

ユネスコ、あるいはユニセフの青年たちとの連携をとり、必要に応じて援助していく。

- (2) 大学の自治会や高校の生徒会に対して「わたしの平和宣言」を紹介して、取り組みをお願いする。
5. 「九条の会」をはじめとして、憲法を守り発展させる人々との協力をすすめる
6. 出版活動などを積極的にすすめる。
 - (1) ブックレット5集を広める。
 - (2) 『戦争をなくすための平和教育』の普及
 - (3) 新しい冊子作成に向けて準備する。
7. 宣伝
 - (1) 講演会やシンポジウムを開く
 - (2) ブックレット（1集から5集）やベティ・リアドン翻訳書の普及
 - (3) ニュースの発行（2ヶ月に1回を目安に）
 - (4) 手製の資料集などを作成・販売する
 - (5) ホームページ（Web-site）の充実
8. 定期的な研究会を開く
9. 平和に関わる様々な運動及び研究団体を、平和の文化という視点で働きかけ横につないでいく活動をすすめる
 - (1) 各団体の連絡先などの一覧を作成する
 - (2) 必要に応じて各団体に呼びかけなどを行う
10. 平和博物館との連携を強め、平和の文化をすすめる活動を促進する。
11. 戦争や暴力文化を助長するメディア等への取り組みをすすめる
 - (1) 新聞、テレビ、ゲームなどの暴力肯定をなくす取り組み
 - (2) 戦争おもちゃへの取り組み
12. トランセンドなどの紛争転換の方法を実践的にすすめる運動にかかわる。
13. その他「平和と非暴力の文化」に貢献することに取り組む

2. 2010年度経過

<2010>

| | |
|-------------------------------|-----------|
| 3月01日（月）第106回幹事会 | 地球ひろば |
| 3月22日（月）2010年度総会（17人） | 大東文化会館 |
| 4月06日（火）第107回幹事会 | 地球ひろば |
| 5月08日（土）日本ユネスコ協会評議員会 | JR東日本（瀧口） |
| 5月18日（火）第108回幹事会 | 地球ひろば |
| 5月31日（月）広報紙「平和の文化をきずく」NO. 60号 | |
| 6月08日（火）第109回幹事会 | 地球ひろば |
| 7月27日（火）第110回幹事会 | 地球ひろば |
| 8月31日（火）第111回幹事会 | 地球ひろば |
| 9月10日（金）広報紙「平和の文化をきずく」NO. 61号 | |
| 9月11日（土）日本ユネスコ協会評議員会 | JR東日本（瀧口） |
| 10月08日（火）第112回幹事会 | 地球ひろば |
| 11月26日（金）第113回幹事会 | 地球ひろば |

<2011>

| | |
|--------------------------------|-------|
| 01月14日（金）第114回幹事会 | 地球ひろば |
| 02月08日（火）広報誌「平和の文化をきずく」NO. 62号 | |
| 02月17日（木）第115回幹事会 | 地球ひろば |

3. 2010年度活動総括

2010年度は総会において金恵玉氏による「平和の文化教育の特性と課題—平和芸術の事例を踏まえて」の講演でスタートし、「世界の子どものための平和と非暴力の文化国際10年」の最終年としての報告をまとめるべく努力をしました。前年度に取り組んだ全国の自治体への調査の報告を奈良氏の努力で英語に翻訳し、国連への報告の資料として活用しました。また日本平和学会や社会教育研究会などでも報告し、平和の文化をきずく会の存在を示すこともできました。

2011年をむかえて新聞紙上に「生命の尊重 求めた10年—きずく会、国・自治体へ働きかけ」が報告され、平和の文化国際10年の締めくくりとすることができました。

また昨年度の自治体調査に加えて、今年度は学校を対象とした調査を埼玉県の中学校と高校あてに送りましたが、現在のところ一部しか回収できていません。以下方針の項目に沿ってコメントします。

(1) 「私の平和宣言」署名への取り組み

今年度もニュースには必ず署名用紙をつけて発送しましたが、組織的な取り組みになっていません。署名用紙のHPからのダウンロードもできるのですが、その成果は届いていません。

(2) CPNN：平和の文化ニュースネットワーク

ブログを使ったシステムに移行して6年目になり、今年度も50程度の記事がアップされました。それぞれの記事を読んでコメントをつけることもすすめられ、この1年の記事については何らかのコメントがつくようになっていきます。

上記のように中央のブログにはこの1年で50を越える記事が掲載され、トータルでも400を超えています。まだまだ数としては多くありません。今後全国で取り組む必要がありますが、記事を編集してHPにアップするモデレーターの養成も求められています。英語での記事を作成することも方針としては掲げましたができていません。

(3) 平和の文化に関する材料・教材の整理、平和教育の実践などをまとめる

ベティ・リアドン氏の著書を翻訳した『戦争をなくすための平和教育』（明石書店）ですが、十分に活用できているというわけにはいきません。今後も引き続いて取り組むと同時に、平和の文化に関する教材や資料を集めて整理していく必要があります。

核兵器廃絶にむけての新しい動きが作られたこの1年を考えると、本格的な平和の文化、平和の文化に関する教育についての取り組みが整理されなければなりません。

(4) こどもと青年が主体となった平和の文化の取り組み

大学のゼミ単位、あるいは小学校や中学校、高校での授業では取り組んでいますが、運動として取り組むことはまだまだできていません。特にきずく会としてこうした運動を組織したり関わったりすることができていません。高校生の平和ゼミや戦争展への企画の参加、ユネスコ協同学校を視野に入れた海外の中学生や高校生、あるいは大学生との国際的な交流を通じた平和文化への取り組みなどが考えられますが、きずく会としてこうした運動や取り組みを集約したり援助したりすることができていません。

(5) 出版活動などを積極的にすすめる

ブックレットの5集『きずきあう平和と非暴力の文化』を2007年に刊行しましたがその後の展開はできていません。次の出版の計画もありますが、販売などの課題もあり、具体化するところまでは至りませんでした。

(6) 宣伝

HPを通じての宣伝やニュースの発行などが基本ですが、ニュースの発行がこの1年は3号におわり、HPの更新も十分にできていないといえます。あらゆるところで「平和の文化」や「きずく会」について紹介していく必要がありますが、この1年は不十分といわざるをえません。

(7) 定期的な研究会を開く

今年度は「平和の文化をめざす『国際10年』自治体アンケート」の報告などに時間がとられ、取り組みに時間を掛けたこともあり、研究会という形は取れませんでした。

(8) 平和団体のつながりづくり

個々の幹事のつながりとしては進んでいます、組織的のそのつながりをひろげるということまでできていません。日本ユネスコ協会連盟では評議員として選任されていて、基本的には参加できています。ESDJも正式の会員として登録されていますがほとんど参加できないまま1年が過ぎています。

(9) 平和博物館との連携を強め、平和の文化をすすめる活動を促進する。

個人的な参加はできていますが、きずく会として連携を深めたり広げたりというところまでできていません。何をどのように取り組むのか具体的に決めないでいたためにすすんでいません。

(10) メディアへの取り組み

メディアへの取り組みが求められていますが、この1年を振り返るときずく会として取り組めていません。子どもの権利条約に対する国の報告書などについては、「第3回 市民・NGO報告書をつくる会」のメディア委員会が国連への基礎報告書を提出し、国連からの勧告が6月に出されています。しかし、きずく会としては直接の取り組みは行っていません。

(11) トランセンドなどの紛争転換等を実践的にすすめる運動への参加

メーリングリストなどを活用してトランセンドの取り組みが進んでいます。国際的なレベルでの「紛争」から個人のレベルでの「もめごと」まで、様々な「紛争転換法」が提起されるようになったことは前進ですし、きずく会としても会員が参加して一定の貢献をしてきています。

(12) その他

憲法9条の改悪を許さない取り組みとして、きずく会としても積極的に取り組むことを位置づけてきましたが、具体的な行動はこの1年でできていません。全国では7000を超える組織ができており、きずく会としてもこうした動きに連動して取り組みをすすめていく必要があります。

核兵器廃絶の動きとしては昨年5月に開催されたNPT(核不拡散条約)の改定への期待と取り組みは様々なところで広がっていましたが、結果としては思わしくありません。きずく会として取り組むことはできませんでした。

幹事会は、月に1回開くということですすめてきました。経過報告で示してありますように、ほぼ原則的に会議を開き、その時々課題に応じてきています。一昨年度以降「JICA地球ひろば」の登録団体になったこともあり、広尾の会議室が無料で借りられることになりました。

会計上の問題としては決算にも書かれていますが、2年前の持ち出しを現在少しずつ穴埋めを行い、ほぼマイナスを解消するところまでできています。ただし実際には、ニュースの発行などが少なかったことにより支出を抑えていることがあり、望ましい形ではありません。今後はマイナスを生じないように進める必要があります。

Ⅱ. 2010年度会計決算

(1) 収入の部

| 項目 | 予算 | 決算 | 比較増減 | 備考 |
|-----|---------|---------|------|-----------------|
| 会費 | 200,000 | 68,000 | | 2000×34 |
| 事業費 | 50,000 | 13,000 | | ブックレット・ワークショップ等 |
| 寄付 | 10,000 | 0 | | |
| 雑費 | 1,000 | 0 | | |
| 繰越金 | -17,248 | -17,248 | | |
| 合計 | 246,272 | 63,752 | | |

(2) 支出の部

| 項目 | 予算 | 決算 | 比較増減 | 備考 |
|-----|--------|--------|------|------------|
| 事務費 | 10,000 | 0 | | 印刷・文具・封筒等 |
| 通信費 | 90,000 | 8,800 | | 110通×80 |
| 会議費 | 30,000 | 40,000 | | 総会講師謝礼 |
| 資料費 | 40,000 | 20,000 | | 日本ユネスコ協会連盟 |

| | | | |
|-----|---------|--------|--|
| 予備費 | 76,272 | 0 | |
| 合計 | 246,272 | 68,800 | |

63,752-68,800=-5048 (次年度への繰り越し)

Ⅲ. 2010年度役員

(1) 代表

| | |
|---------------------|---------------------|
| 浅井 基文 (広島平和教育研究所) | 森田 俊男 (平和国際教育研究協議会) |
| 柳沢 民雄 (新英語教育研究会) | 高野 哲郎 (東京平和国際教育研究会) |
| 藤田 秀雄 (立正大学名誉教授) | 堀尾 輝久 (民主教育研究所) |
| 横川 嘉範 (日本平和教育研究協議会) | |

(2) 幹事

| | |
|----------------------|--------------------|
| 浅川 和也 (東海学園大学) | 阿原 成光 (民主教育研究所) |
| 伊藤 武彦 (和光大学) | 金子 真 (歴史教育者協議会) |
| 菊地 恵子 (新英語教育研究会) | 杉田 明宏 (大東文化大学) |
| 瀧口 眞央 (さいたま教育文化研究所) | 渡辺 賢二 (歴史教育者協議会) |
| 埴 清子 (教育科学研究会) | 松井 ケティ (清泉女子大学) |
| 小島健太郎 (成蹊中高) | 馬場 千枝子 (ヒューマンリソース) |
| 岡崎 聡介 (日本機関紙協会埼玉県本部) | 竹峰誠一郎 (三重大学) |
| 秋林こずえ (立命館大学) | 竹内 久顕 (東京女子大学) |

(3) 事務局

瀧口 優 (白梅学園短期大学)

(4) 監事

松本 孚 (相模女子大学) 諫山 和可 (都立小山台高校)

Ⅳ. 2011年度活動予定

1. 平和の文化と非暴力に関する取り組みをすすめる。

*本会は国際連合の「平和の文化に関する宣言」ならびに「行動計画」の精神をふまえて、日本に平和と非暴力の文化をきずくことを目的とする。

(平和の文化をきずく会会則第2条【目的】)

*この会はその目的を達成するために、会員の自主的な活動を尊重しつつ次の活動を行なう。

- ア. 研究会、講習会、懇談会の開催
- イ. 平和の文化に関する情報交流と資料の提供
- ウ. 様々な団体との交流
- エ. その他「平和の文化」をすすめるために必要なこと

(平和の文化をきずく会会則第5条【活動】)

1). 「わたしの平和宣言」署名の取り組み

- (1) 国際年の取り組みと同じように数の集約を行う。
- (2) 様々な組織に呼びかけ、平和運動の一環として取り組み、その集約数字は関連機関に報告する。

2). CPNN (Culture of Peace News Network: 平和の文化ニュースネットワーク)

- (1) 今後とも現在のHPを維持しつつ、投稿の記事を広げて行く。
- (2) モデレーターを養成するためのワークショップを行い、記事が掲載される可能性を拡大する。

*400字を含めた投稿の規則を文書化して広める

- ①積極的である②理解可能③短い（日400字／英200語）④わくわくする ⑤首尾一貫した
⑥礼儀正しい⑦真実である⑧相互作用の⑨具体的⑩公共の利益

HP: <http://blog.goo.ne.jp/cpnn>

- 3) . 平和の文化に資する材料・教材の整理,平和教育の実践などをまとめる
(1) まとめる母体として日本ハーグ平和アピール平和教育地球キャンペーンとの連携によってすすめる
(2) 教材・関連団体等についてはHP上に載せられるようにしていく
(3) 『戦争をなくすための平和教育』等の出版物を普及させる。

HP: <http://gcpej.jimdo.com/ >

- 4) . 子どもと青年が主体となっている平和の文化をきづく活動に対して協力していく。
(1) 戦争展実行委員会の高校生や大学生、高校生平和ゼミ、ピースボート、その他大学生や高校生ユネスコ、あるいはユニセフの青年たちとの連携をとり、必要に応じて援助していく。
(2) 大学の自治会や高校の生徒会に対して「わたしの平和宣言」を紹介して、取り組みをお願いする。
(3) 以上を踏まえてネットワーク団体を広げていく。
5) . 「九条の会」をはじめとして、憲法を守り発展させる人々との協力をすすめる

HP: <http://www.9-jo.jp/>

- 6) . 出版活動などを積極的にすすめる。
(1) ブックレット5集を広める。
(2) 『戦争をなくすための平和教育』の普及
(3) 新しい冊子作成に向けて準備する。

7) . 宣伝

- (1) 講演会やシンポジウムを開く
(2) ブックレット（1集から5集）やベティ・リアドン翻訳書の普及
(3) ニュースの発行（2ヶ月に1回を目安に）
(4) 手製の資料集などを作成・販売する
(5) ホームページ（Web-site）の充実

HP: <http://homepage2.nifty.com/peacecom/cop/>

- 8) . 定期的な研究会を開く
9) . 平和に関わる様々な運動及び研究団体を、平和の文化という視点で働きかけ横につないでいく活動をすすめる
(1) 各団体の連絡先などの一覧を作成する
(2) 必要に応じて各団体に呼びかけなどを行う
10) . 平和博物館との連携を強め、積極的に出かけていながら平和の文化をすすめる活動を促進する。
11) . 戦争や暴力文化を助長するメディア等への取り組みをすすめる
(1) 新聞、テレビ、ゲームなどの暴力肯定をなくす取り組み
(2) 戦争おもちゃへの取り組み
12) . トランセンドなどの紛争転換の方法を実践的にすすめる運動にかかわる。
13) . その他「平和と非暴力の文化」に貢献することに取り組む
14) . 国連として「平和の文化」に引き続いて取り組むように働きかけていく。
(国連、国連広報センターなど)

2. 震災被害への対応

- 15) . 3月11日の東日本大地震の災害を踏まえ、きづく会として可能な支援を行なっていく。また原子力の問題では平和と非暴力の観点から議論をすすめ、安全で持続可能なエネルギーへの転換をすすめる。

V. 2011年度会計予算(案)

(1) 収入の部

| 項目 | 予算 | 前年度予算 | 比較増減 | 備考 |
|-----|---------|---------|------|-----------------|
| 会費 | 100,000 | 200,000 | | 2000×50 |
| 事業費 | 10,000 | 50,000 | | ブックレット・ワークショップ等 |
| 寄付 | 5,000 | 10,000 | | |
| 雑費 | 1,000 | 1,000 | | |
| 繰越金 | -5,048 | -17248 | | |
| 合計 | 110,952 | 246,272 | | |

(2) 支出の部

| 項目 | 予算 | 前年度予算 | 比較増減 | 備考 |
|-----|---------|---------|------|-----------------|
| 事務費 | 5,000 | 10,000 | | 印刷・文具・封筒等 |
| 通信費 | 50,000 | 90,000 | | 150通×80×4+α,TEL |
| 会議費 | 20,000 | 30,000 | | 会場費、交通費等 |
| 資料費 | 30,000 | 40,000 | | 講師謝礼等 |
| 予備費 | 5,952 | 76,272 | | |
| 合計 | 110,952 | 246,272 | | |

VI. 2011年度役員

(1) 代表

藤田 秀雄 (立正大学名誉教授)

(2) 幹事

浅川 和也 (東海学園大学)

阿原 成光 (民主教育研究所)

いとうたけひこ (和光大学)

金子 真 (歴史教育者協議会)

菊地 恵子 (新英語教育研究会)

杉田 明宏 (大東文化大学)

瀧口 眞央 (さいたま教育文化研究所)

奈良 勝行 (法政大学)

埜 清子 (教育科学研究会)

松井 ケティ (清泉女子大学)

小島健太郎 (成蹊中高)

馬場 千枝子 (ヒューマンリソース)

岡崎 聡介 (日本機関紙協会埼玉県本部)

秋林こずえ (立命館大学)

竹内 久顕 (東京女子大学)

(3) 事務局

瀧口 優 (白梅学園短期大学)

(4) 監事

松本 孚 (相模女子大学)

諫山 和可 (都立小山台高校)

<顧問>

浅井 基文 (広島平和教育研究所)

高野 哲郎 (東京平和国際教育研究会)

堀尾 輝久 (民主教育研究所)

柳沢 民雄 (新英語教育研究会)

□総会の議論を踏まえて

総会では、今後の取り組みについて方針に掲げているものを具体化するために、それぞれの項目を誰が積極的に進めるのかも話し合った。①出版について(瀧口)②他団体との連携について(いとう)③平和教育の転換について(藤田)④映像での取り組み(磯部)⑤震災(杉田、きくち)、その他まだ決まっていないものもあります。

とにかく今年度は原子力発電問題について継続的に追求して論議をすすめることになりました。

◆第116回幹事会報告

4月17日（日）地球広場において第116回幹事会を行ないました。総会を受けての取り組みの具体化として、核の問題について話し合いました。いとうさんからは「平和心理学者から見た東日本大震災：地震と津波と原発事故にどう立ち向かうか？」として、臨床心理学者の被災地での体験について、主にメディアの報道がもたらす問題とその対処について報告してもらいました。また藤田代表からは、核の問題点について15点にわたって提示されました。①原子力発電所の本質は核分裂の利用であり、核兵器と同じである、②原発に関する技術については不完全なままであり、原発の危険性＝被害の大きさ×確率という論からすれば極めて危険な状況にある、③国家的デマゴギーのコングロマリットができていく（電力会社、メーカー：日立、東芝等、独立していない政府官僚組織、そしてマスメディア）、④ものすごいお金を使った御用学者の養成：産学の癒着と人事への介入、⑤環境運動へのいざない（ごまかし）：原子力は温暖化を回避できるという、⑥学校教育での安全神話：教科書の記述で原発の危険性を記述したものは検定で排除されてきた、⑦原発神話の創作（安全、エコ、安い）、⑧1986年のチェルノブイリ以来世界的な反原発の動き、⑨脱原発訴訟：金沢地裁「住民の主張は正しい」から日本の司法の問題、⑩福島第一原発の使用期限延長問題（30年+10年+20年）、⑪原発安全教育：教育施設、マスメディア、自治体の社会教育等、⑫今後どうするのか（反原発でいくのか）、⑬放射能問題、⑭内部被爆（X線とは比較にならない）。以上項目だけですが、それぞれ深めるテーマでもあります。

いずれにしても原発が単なるエネルギー問題ではなく、大企業やアメリカを含めた戦略の中での推進であることを理解して、取り組みをすすめることが必要だということを確認させられました。

◆連絡・情報コーナー

★2011年度の会費（現在25名）を郵便局の払い込み用紙で以下の郵便振替口座へ2000円お願いします。（00120-0-182008 平和の文化をきずく会）

*記入済みの払い込み用紙をなくしてしまった方は郵便局にて青い振込み用紙を手に入れて上記の口座をお願いします。

★PCのメールアドレスがある人は教えてください。

既にこちらに届けてある方もあると思いますが、手書きでは間違いも多く、実際に届かない例もあります。今後はニュースの配布を電子データで送りたいと思っています。以下のアドレスに「平和の文化をきずく会アドレス」として名前を入れて送ってください。

takiguchi - masaru@r8.dion.ne.jp

次回の117回幹事会は5月27日（金）18時30分からJICA地球ひろば（地下鉄日比谷線広尾駅下車 A3 出口）セミナールーム201で開催します。問合せ電話は080-3450-6878（瀧口）へお願いします。

1. 東日本大震災と原子力発電所の問題について
2. .講座などへの取り組みについて

JICA地球ひろば所在地 〒150-0012 東京都渋谷区広尾4-2-24 電話番号：03-3400-7717（代表）

*国連で「平和の文化」について決議された文書が次のHPに掲載されています。

http://www3.unesco.org/iycp/uk/uk_sum_refdoc.htm

*「きずく会」のホームページ (<http://homepage2.nifty.com/peacecom/cop/>)

*平和の文化ニュースネットワーク (<http://blog.goo.ne.jp/cpnn>)

*事務局：〒332-0015 川口市川口2-15-1-1004 瀧口優 048-254-5074(TEL)048-254-5051(FAX)